

外海地区の公共施設のあり方を考える市民対話《かわら版》

❀ 第4回 開催報告 ❀



ご参加いただいた皆さま
ありがとうございました。

日時 平成30年2月18日(日) 13:00~15:00

場所 黒崎地区公民館

参加者 地域の皆さん 23人



1 市民対話 全4回の流れ

第1回 (11/23)

- ①長崎市の**公共施設の現状**や**見直しの必要性**について
- ②外海地区の**公共施設の**
利用状況を確認

第2回 (12/17)

- ①市全体の**公共施設の配置の考**
え方と、市で検討した**外海地区の公**
共施設のあり方の**見直し案**の説明
- ②**見直し案**へのご意見・ご提案

第4回 (2/18)

- ①第3回でいただいた意見等に対し、
市で検討した結果を説明
- ②**意見交換**
- ③**対話のまとめ**

第3回 (1/27)

- ①第2回でいただいた意見等に対し、
市で検討した結果を説明
- ②市から提示した「**話し合っていた**
だきたいこと」について**意見交換**

2 外海地区の公共施設の配置の考え方

観光施設



まちづくり記念館

観光客が施設等の魅力を感じ、理解を深め、高い満足度を得るような価値を有する場所に設置することとしています。

- ❀現在は外海地区におけるガイドステーションとして利用されていますが、その機能を周辺施設に移転し、施設については廃止したいと考えています。

文化財



ド・ロ神父記念館

文化財は、地域の歴史や文化に欠くことのできない大切な財産として、文化財保護法などにに基づき、保存、継承、活用することが求められています。

- ❀文化財として、引き続き適正に管理します。

2 外海地区の公共施設の配置の考え方（つづき）

博物館等



外海子ども博物館

市民全体が利用する施設として、教育の振興や学術・文化の発展に寄与することを目的として設置していますが、老朽化等により設置当初の機能を果たせていなかったり、展示物の移転・集約が可能な施設もあり、長崎市全体として、見直しを図ることとしています。



外海歴史民俗資料館



遠藤周作文学館

- ❖ 外海子ども博物館は、平成30年3月1日をもって廃止されました。
- ❖ 今後、内部改修を行って、9月から、老朽化した出津地区公民館の移転先として、ご利用いただくこととしています。

- ❖ 歴史民俗資料の展示や保存については、将来的に平野町の歴史民俗資料館に集約しますが、キリスト教関連などの外海地区の特徴的な資料については、外海の地域内で引き続き展示することとしています。
- ❖ 現在、歴史民俗資料館運営委員会で、展示資料の整理の考え方についての議論が行われており、その議論も踏まえて、将来的な施設のあり方について検討していきます。

- ❖ 遠藤文学ゆかりの地に立地し、貴重な遠藤周作に関する資料を有する施設として、引き続き適正に管理していきます。

コミュニティ活動施設



黒崎地区公民館

公民館やふれあいセンター、老人福祉センターなどは、いずれも会議室や講堂などの広いスペースを備え、地域の皆さんが身近にふれあったり、趣味の活動をしたりすることができる場となっています。こうしたいろいろな活動を行っていく場（コミュニティ活動施設）については、気軽に立ち寄ることが出来る範囲として、小学校区ごとに配置していく考えですが、外海地区では、地域の成り立ちなどを考慮し、旧小学校区ごとに配置していきます。ただし、近くに同じような使い方をしている施設がある場合は見直す必要があります。



外海公民館

- ❖ 黒崎地区公民館と外海公民館は、地域活動の拠点として、引き続き適正に管理します。



出津地区公民館



- ❖ 出津地区公民館は、平成30年9月に外海子ども博物館に移転することとしています。移転後は、出津地区における地域活動の拠点として、適正に管理していきます。



老人福祉センター
開陽山荘

- ❖ 開陽山荘は、利用者が少なく、建物は非耐震で老朽化が進んでおり、特にボイラー設備は耐用年数を迎えています。また、旧出津小学校の地域内には、同じコミュニティ機能をもつ出津地区公民館があります。
- ❖ こうしたことから、開陽山荘については、今後ボイラー設備の更新は行わず、入浴機能について、民間施設の利用なども含め代替策を検討した上で、施設を廃止したいと考えます。

レクリエーション施設



黒崎海岸有料シャワー施設

- ❖ 他のサーフスポットでは、利用者自身が簡易シャワーやポリタンクなどを準備していることなどから、今後、施設の改修などに大きな費用を投資する必要が生じた場合に廃止したいと考えます。また公衆トイレ機能については、利用者の皆様とも協議して検討したいと考えています。

民間運営が可能だったり、県の施設と機能が重複しているレクリエーション施設については、民間への移管や用途廃止により全体として規模の縮小を図ることとしています。



西出津ゲートボール場

- ❖ 西出津ゲートボール場は、ゲートボール専用施設としては廃止し、多目的に利用できるように活用のあり方について、地域の皆様と考えていきます。

農林業振興施設

長崎市全体として施設規模の適正化を図っていくこととしています。



外海ふれあい
農産加工所

- ❖ 施設は適正に管理しながら、さらなる農業振興・地域振興につながるよう、今後、運営のあり方については継続して検討していきます。

物産振興

農水産物直売所は、生産者の所得向上や地域の農水産業の活性化に大きな役割を果たしていますが、その多くが民間により設置・運営されており、市で設置している直売所については、あり方を見直していく必要があると考えています。



道の駅
夕陽が丘そとめ

- ❖ 道の駅は市町村などが設置主体である必要があり、道の駅のブランド力を活かした情報発信・地域交流の拠点として、現在の施設を適正に管理しますが、施設や運営のあり方は、今後とも継続的に見直していきます。

地域センターなど

行政手続きや地域のまちづくりを支援する拠点は、引き続き地域に必要と考えています。



外海地域センター



外海地域センター
黒崎事務所

- ❖ これから人口の減少が進むとともに、手続きの電子化や簡素化が進むことも見込まれるため、将来的には、人口動向などによっては適切な見直しを図っていくことも検討しながら、現在の施設を適正に管理します。

市営宿泊施設

宿泊施設については、本来は民間に任せるべき分野と考えており、将来的に廃止、または民間運営が可能な施設については民間委譲を行うこととしています。



外海ふるさと
交流センター

- ❖ 外海地区内には宿泊施設が少ないことから、現在の施設が使用可能な当分の間、宿泊機能については引き続き設置しますが、施設や運営のあり方、余剰スペースの活用などについては、今後も継続的に検討することとします。

市営住宅

人口減少社会を迎え、将来的な住宅需要の減少が予測されますので、市全体で総戸数を縮小していく方針です。また、入居者の点在を解消するため、将来的に建て替える際はできるだけ集約し、効率的な維持管理が出来るようにしていく方針です。



永田第1住宅



永田第2住宅



永田第3住宅



高尾住宅



松本住宅



松山迫住宅



出津住宅



西出津住宅



丸尾住宅



神浦住宅



夏井住宅

❖ 外海地区の市営住宅については、引き続き適正な維持管理に努めるとともに、今後の住宅需要や民間の動向を踏まえたうえで、適正な管理戸数になるよう見直します。

港湾施設



神浦港ターミナル

❖ 離島地区の住民や観光客などの航路利用者には必要不可欠ですので、航路がある限り、船客待合所としての機能を維持します。

消防出張所



北消防署神浦出張所

❖ 効率的な消防、救急、救助活動のため、道路状況や隣接する消防施設の位置などを考慮した上で、全市的な観点で計画的に配置します。

小中学校

❖ 外海地区の学校の適正配置については、すでに協議が済みであり、今の施設を適正に管理します。



外海黒崎小学校



神浦小学校



外海中学校
※
新校舎建築中

遊休資産

遊休資産については、建物の残存耐用年数や施設の老朽化の状況などを考慮し、建物の解体や売却・貸付も含め、今後、有効な活用方法の検討を行います。



黒崎中学校
(H31年4月以降)

❖ 黒崎中学校は、校舎が耐震化されていないことや、防犯上の観点から、H31年4月以降に解体し更地にした上で、売却も含めた跡地の活用を検討します。



旧外海行政センター

❖ 旧外海行政センターも、建物の老朽化が著しいため、大規模な改修は行わず、解体し更地にした上で、売却も含めた跡地の活用を検討します。



旧神浦中学校

❖ 旧神浦中学校は、引き続き校舎を含めた有効活用を検討します。

○老人福祉センター開陽山荘について

①開陽山荘廃止後の社会福祉協議会外海支所がどうなるのだろうか。子ども博物館や、旧神浦中へ移転してはどうかというアイデアも出されているが、社協側の考え方がわからないことには、議論することができない。

②入浴機能については代替策を検討することだが、具体案はあるのか。

①社協とは協議をしていますが、今後の方針は決まっていないとのこと。今回いただいた社協の将来のあり方についてのご意見は、しっかり社協の方にお伝えします。

②社会福祉施設の事業所では、デイサービスなどの色々なサービスを提供しており、近隣の社会福祉法人において、浴場開放等の地域貢献活動ができないかどうかを検討していきたいと考えています。



○外海歴史民俗資料館について

・資料が平野町の資料館に移されるとのことだが、展示なのか保管なのか。また、資料が重複する場合には処分することもあるのか。

・現在、歴史民俗資料館運営委員会で展示資料の整理の考え方を議論していますが、資料を処分することは考えていません。外海に関わりのあるキリスト教関連資料などは今のまま地域に残し、それ以外については、平和町に集約する方向で検討しています。

○西出津ゲートボール場について

・ゲートボール以外の目的でも利用できるように検討することだが、ゲートボールは路面を平たく保つ必要があるため、他のスポーツとの併用は不可能と考えるが。

・今後もゲートボールで使いたいという方もいらっしゃると思いますが、お聞きする中では、ゲートボールに限らず多目的な利用に対応してほしいとの意見が多かったようです。お話をしながら決めていくことになりましたが、中学校が移転してくることから、子ども達による利用も含め、有効な使い方を考えていきたいと思っています。



○外海ふるさと交流センターについて

・併設する地域センターの空きスペースについては、現在の宿泊施設の運営事業者の希望はどうか。

・行政センター跡の2階の空きスペースについては、皆様方からの意見にもあった炭鉱資料の展示なども含め、今後の有効活用について、宿泊施設の運営事業者とも相談しながら検討していきたいと考えています。



3 意見交換（つづき）

○遊休資産(黒崎中学校、旧神浦中学校、旧外海行政センター)について

- ・民間への売却、貸付を行うとのことだが、具体的な展望はあるのか。

- ・売却や貸付をする場合は、原則として入札に付すこととなりますが、その際は、広く周知を図って、できるだけ多くの入札参加者を募れるようにしていきたいと考えています。



○外海地域センター黒崎事務所について

- ・2階の豊部屋が使われていないようだが、避難場所として活用できないのか。道路からも入りやすいし、現在、避難場所として使っている1階の部屋よりは広くて使いやすいと思う。

- ・黒崎地区の避難所については、立地や設備の面から、多くの方は黒崎地区公民館を利用されている状況です。黒崎事務所については、避難する人の状況を見ながら活用することとしています。

- ・神浦小学校横の木造住宅については、平成30年度に解体を予定しています。それ以外にも、外海地区には用途廃止した建物がありますが、利用できないものは解体し、跡地は売却する方針です。決まり次第情報提供をさせていただきます。

○旧教職員住宅について

- ・利用されず、そのままになっている木造の建物は早く解体できないのか。

【講評】（アドバイザー：首都大学東京 都市環境学部 讃岐 亮 先生）

今回の対話で象徴的だったのは、ゲートボール場の議論ではないでしょうか。皆様の方からは、今の利用の状況を見て、ゲートボールとそれ以外で半面ずつ使ってはどうかというアイデアが出され、多目的な場所として使い方を改めってはどうかという議論にも発展しました。こういう話は、対話をしていかないとなかなか出てこないことでもあります。

これまで話してきたことは、今後の具体的な議論のベースになるはずですが、施設を賢く使っていこうという目的を果たすためには、まだ課題が残っています。今回まで体験していただいた議論を次に繋げていってほしいと思います。

4 今後の流れ

※この対話で出たご意見などを参考に、施設の整備計画は最終的に市で決定していきます。

住民対話(全4回)



ご意見・ご提案

地区別計画の策定



皆さんからの
ご意見・ご提案を
参考に
市でとりまとめ

公共施設の地区別計画を策定しましたら、外海地区の皆さんへ改めてお知らせいたします。たくさんのご意見・ご提案をありがとうございました。